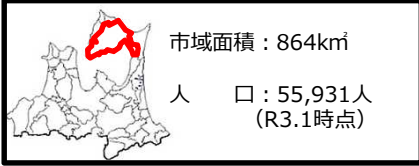


「新しいまちづくりのモデル都市」の取組例

都市名	取組概要	目標設定
青森県 むつ市	<p>○ 2つの拠点地域において、Park-PFI制度を活用した「新たな日常」に対応したオープンスペースの充実を中心に、都市再生推進法人による社会福祉施設の整備、イノベーション等の新たな拠点となる大学キャンパス・コワーキングスペース等における大学や地元企業、地域住民との連携による人材育成の推進等、多様な官民連携の取組により稼ぐ力の向上及びゆとりと賑わいのある新たな日常のまちを創出する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人口密度維持 ・歩行者通行量増加 ・市民所得増加
愛知県 岡崎市	<p>○ 公民連携まちづくり「QURUWA戦略」として、ウォーカブル区域内の拠点間の回遊の誘導、街路空間の活用におけるエリアマネジメントの推進、かわまちづくりにおける民間事業者によるコンテンツの提供等の実施により、民間主導の稼ぐ力の活用に向けた環境を整備するとともに、イベント時の密の回避を目的としたICTの活用等、「新たな日常」にも対応した賑わいのある空間を創出する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・民間事業活動日数増加 ・路線価上昇 ・歩行者通行量増加
広島県 広島市	<p>○ 旧広島市民球場跡地におけるPark-PFI制度を活用したオープンスペースの充実、民間事業者による広島駅前のウォーカブル空間の形成、都心全体の持続的なエリアマネジメント活動の実践等をそれぞれ推進することにより、ゆとりとにぎわいのある都心づくりを創出し、居心地が良く歩いて楽しく回遊できる環境づくりを進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・都市の魅力度増加 ・公園利用者数増加 ・歩行環境の満足度増加
熊本県 熊本市	<p>○ 道路空間の再配分による辛島公園及び花畑広場間の歩行空間化や、交通事業者と連携したまちなかループバスの運行を進めるなど、ハード・ソフト両面でウォーカブルなまちづくりを推進するとともに、市民協働による夜間景観の形成を進めることで、「昼も夜も誰もが歩いて楽しめる魅力的で、災害にも備えた都市空間」を創出する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行者通行量増加 ・賑わいがあると感じる市民の割合増加 ・地価上昇

青森県むつ市

テーマ:オープンスペースとコミュニケーションが紡ぐ多様なまちづくり

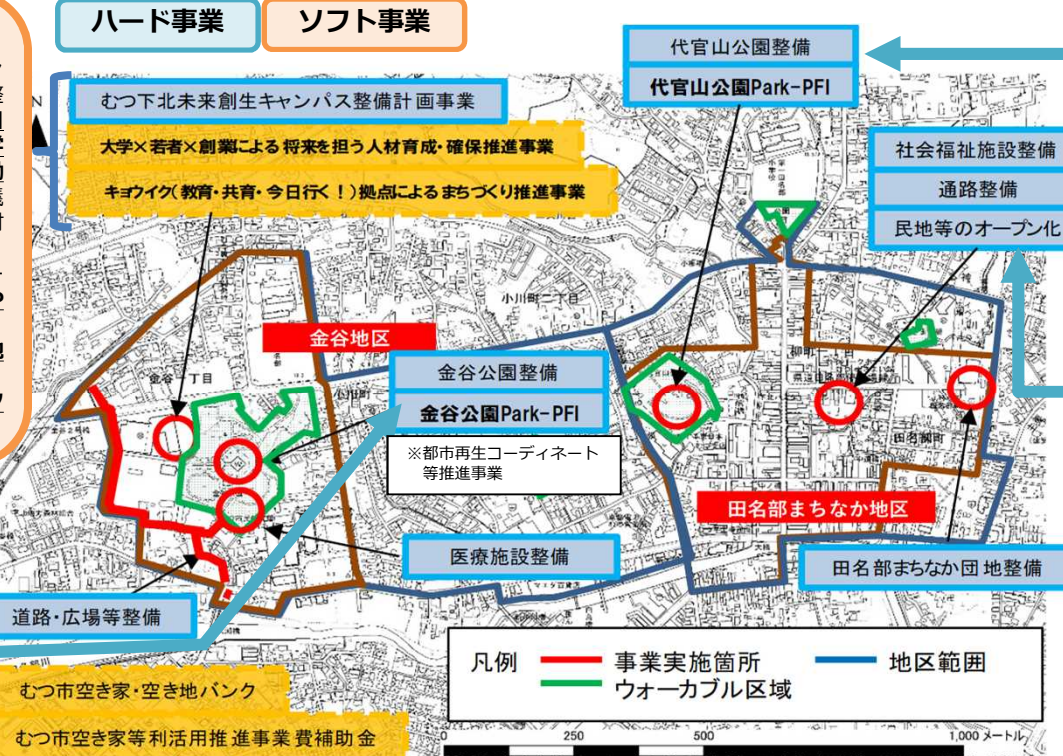


【立地適正化計画】
平成29年2月公表（居住誘導区域）
【都市再生整備計画（滞在快適性向上区域）】
令和3年3月公表

○ 2つの拠点地域において、Park-PFI制度を活用した「新たな日常」に対応したオープンスペースの充実を中心に、都市再生推進法人による社会福祉施設の整備、イノベーション等の新たな拠点となる大学キャンパス・コワーキングスペース等における大学や地元企業、地域住民との連携による人材育成の推進等、多様な官民連携の取組により稼ぐ力の向上及びゆとりと賑わいのある新たな日常のまちを創出する。

○むつ下北未来創生キャンパス関連事業
学び、交流、大学連携、イノベーションの拠点となる「むつ下北未来創生キャンパス」として地域初の4年制大学の整備、コワーキングスペース等の新たな日常に対応できる環境の整備にあわせ、学校法人や地元企業を中心に産学官金協働で設立された「むつ下北未来創造協議会」と大学・大学生との連携による人材の好循環を推進。具体的には、
・地元企業や住民によるプラットフォームを中心とした、インターンシップやセミナー等の開催
・全年代を対象とした学び直しによる地域内雇用の機会充実、人材育成
・学生と地域をつなぐ交通ネットワークの形成

○金谷公園Park-PFI
公園の近隣に総合病院があり、非常時にオープンスペースとして公園を利用できるように再整備を実施。



○代官山公園整備
Park-PFIにより、コロナ禍において需要が高まっているグランピングなどのアウトドアを気軽に体験できる公園づくりを実施。



○社会福祉施設等の整備
老朽化したバスターミナルを除却し、コミュニティ機能や福祉機能との複合施設を整備し、施設の一部にてオープンスペースの場を形成。



目標設定


居住誘導区域内の人口密度
居住誘導区域内の人口密度を3年後も引き続き維持
(従前値) 24.1人/ha (令和2年12月)
→ (目標値) 24.1人/ha (令和5年度末)

平日の商店街歩行者通行量
人口減少に伴う空き店舗の増加により商店街歩行者通行量を増加基調に
(従前値) 404人/日 (令和2年7月)
→ (目標値) 600人/日 (令和6年7月)

人口1人当たりの市民所得
空き店舗増加に伴う市民所得の減少を5年後には増加基調に
(従前値) 2,265千円 (令和元年)
→ (目標値) 2,425千円 (令和5年)

愛知県岡崎市

テーマ: 公共空間から始まる民間主導の公民連携まちづくり



市域面積：387.2km²
 岡崎市 人口：386,252人 (R3.1時点)

【立地適正化計画】
 平成29年3月公表（都市機能誘導区域）
 平成31年3月公表（居住誘導区域）
 【都市再生整備計画（滞在快適性向上区域）】
 令和3年4月公表予定

○ 公民連携まちづくり「**QRUWA戦略（※）**」として、ウォーカブル区域内の拠点間の回遊の誘導、街路空間の活用における**エリアマネジメントの推進**、かわまちづくりにおける民間事業者による**コンテンツの提供等の実施により、民間主導の稼ぐ力の活用に向けた環境を整備するとともに、イベント時の密の回避を目的としたICTの活用等、「新たな日常」にも対応した賑わいのある空間を創出する。**

※公共空間各拠点を結ぶ約3キロのまちの主要回遊動線（QRUWA：クルワ）を実現させ、公民連携プロジェクトによりまちの活性化（暮らしの質の向上・エリアの価値向上）を図る戦略。

ハード事業

○街路空間の活用
 道路占用特例区域・都市利便増進協定により、都市再生推進法人による**エリアマネジメント**を実現。沿道店舗・住民と一体となった**日常的な歩道空間活用による通りの活性化**を図る。
 (例) 歩道空間オープンテラス化、情報発信板等の常設運営など



ソフト事業

○高質空間形成施設（プロムナード）
 居心地がよく歩きたくなる空間整備のため、主要回遊動線におけるプロムナードの整備、歩行者系案内サインの設置やバリアフリー対応トイレなど街で過ごしやすい機能の充実。



イメージ図



サイクルシェア運営(回遊促進)
 道路占用特例区域 都市利便増進協定
 籠田公園・中央緑道パークマネジメント (公園・駐車場指定管理導入)
 空家・空き店舗のリノベーション活用
 高質空間形成施設 (歩行者系案内サイン):地区全体
 沿道建物のリノベーション(NTTビル)
 情報化基盤施設整備解析 (地区内イベント時3D-LIDER) (人流属性推定カメラデータ分析)
 Park-PFI(桜城橋・橋詰広場)
 高質空間形成施設 (駅前広場へのトイレ等回遊支援機能整備)
 高質空間形成施設 (プロムナード)
 PPP活用拠点形成事業 (交流拠点・回遊拠点等) 道路・公園事業 (周辺市道・河川緑地整備)
 ○PPP活用拠点形成事業
 市有地を活用し、河川空間との連携を図り、**エリアの交流及び回遊の拠点となる複合施設を民間で一体的に形成。**

凡例 赤線 事業実施箇所 青線 地区範囲
 緑線 ウォーカブル区域

○公園緑地の活用（パークマネジメント）
 籠田公園への常設的な店舗等を誘導し、**公共空間内に留まらない新たな創業と公園の利便増進**、また**地下の市営駐車場と一体の指定管理によるマネジメントを導入し、継続的な公共空間活用と周辺エリアへの波及・民間投資誘導**を図る。



○空家・空き店舗リノベーション
 中央緑道沿道のオフィスビルの1階フロアを、市と企業の連携協定に基づき、中央緑道の活用を図りながら、**周辺地域に波及する新たなコンテンツを誘導。**

○かわまちづくり（河川・公園緑地の活用）
 規制緩和により、**河川空間での民間事業による観光船、SUPやナイトマーケット、キャンプ、などオープンな空間での様々なコンテンツを提供。**



○スマートシティ（ICTの活用）
 3D-LiDERによる**公共空間での集客時の密のコントロール**、アプリを活用したサイクルシェアによる回遊促進、人流属性推定カメラデータを用いたストリートブランディングなど**新たな日常に対応したサービス提供。**



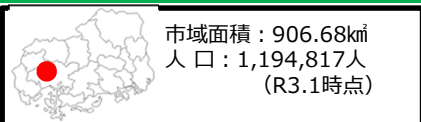
QRUWA上の公共空間の民間事業活動日数
 民間事業の活動日数を増加基調に
 (従前値) 204日/年 (令和元年)
 → (目標値) 300日/年 (令和7年度末)

QRUWA上の路線価
 5年後までに対象エリアの路線価を
1㎡あたり300円増加基調に
 (従前値) 110.0千円/㎡ (令和2年)
 → (目標値) 110.3千円/㎡ (令和7年)

地区中央部の橋梁（歩道、人口橋）の往来数
 往来数を5年後までに増加基調に
 (従前値) 6,405人/日 (令和2年)
 → (目標値) 7,200人/日 (令和7年度末)

広島県広島市

テーマ: オープンスペースを活用したゆとりとにぎわいのある都心づくり



【立地適正化計画】
平成31年1月公表（都市機能誘導区域）
平成31年1月公表（居住誘導区域）
【都市再生整備計画（滞在快適性向上区域）】
令和3年3月公表

- 旧広島市民球場跡地におけるPark-PFI制度を活用したオープンスペースの充実、民間事業者による広島駅前のウォークブル空間の形成、都心全体の持続的なエリアマネジメント活動の実践等をそれぞれ推進することにより、ゆとりとにぎわいのある都心づくりを創出し、居心地が良く歩いて楽しく回遊できる環境づくりを進める。

○オープンスペースの充実

中央公園において、サッカースタジアムの建設を契機として、**中央公園全体の空間づくり及び回遊ルート**の形成に取り組む。このうち、旧広島市民球場跡地については、民間のノウハウを生かし、国際的な大会等が開催できる広場の整備やイベントの企画・誘致、**官民連携によるパークマネジメント**など、**ゆとりとにぎわいのある都心のシンボル空間を創出**。

イメージ図

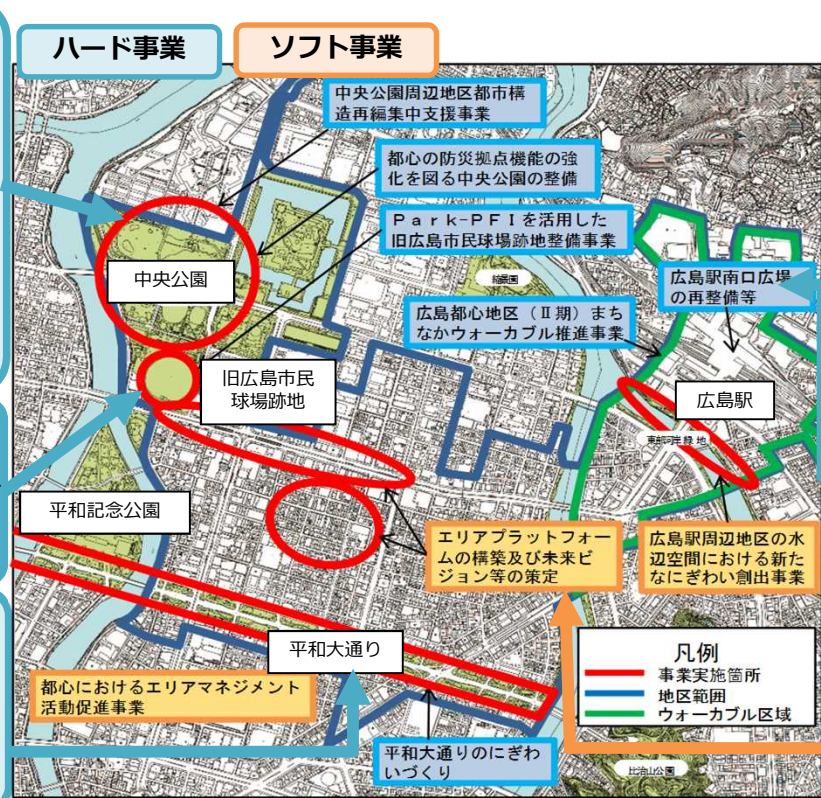


○テレワーク施設の整備

旧広島市民球場跡地において、イベント広場は、**市民や観光客等が日常的に憩えるよう**一定規模の屋根を備えたものとし、**テレワーカーにも対応できる無料公衆無線LANサービスを提供できるWi-Fi環境を整備**。

○平和大通りのにぎわいづくり

都心のシンボルロードである平和大通りにおいて、**道路空間である緑地部分を都市公園とした上で、Park-PFI制度の活用**などにより、オープンカフェなどの収益施設・園路・広場・植栽などの整備を行う。また、**多様な担い手と連携・協働したイベント開催等の利活用の取組**を推進。



下紙園駅周辺地区都市構造再編集中支援事業
可部地区都市構造再編集中支援事業



○エリアマネジメント活動の促進

再開発等で整備された公共空間等の利活用等を行うエリアマネジメント活動を促進し、**都心におけるゆとりとにぎわいを創出**する。

○広島駅前の官民連携によるウォークブル空間の形成

広島駅前の広場を拡張することにより、駅周辺に点在するバスの乗降場を集約するなどの再整備を行う。あわせて、広場や新駅ビルを中心に広島駅南口及び日本郵便の新ビル方面へのペDESTリアンデッキを設置することにより、**駅自由通路とつながる2階レベルの歩行者ネットワークを構築**。

イメージ図

○エリアプラットフォームの構築及び未来ビジョン等の策定
西の核である紙屋町・八丁堀地区において、**公共空間等を活用した社会実験など、具体的なアクションプログラム**を推進し、新たな魅力とにぎわいの創出に資するパブリック空間を創出することなどにより、**多様な人材の出会い・交流を促進**する方向性を定め、官民で共有。



都心が魅力的であると 思う人の割合

都心の魅力度を増加基調に
(従前値) 62% (平成28年度)
→ (目標値) 65% (令和5年度末)


中央公園の利用者数

中央公園の利用者数を平成6年度末までに
現在の474万人から600万人まで増加
(従前値) 474万人/日 (平成30年度)
→ (目標値) 600万人/日 (令和6年度末)

歩行環境の満足度

広島駅周辺地域や紙屋町・八丁堀地区に
おける歩行環境の満足度を増加基調に
(従前値) 40.3% (平成29年度)
→ (目標値) 41.1% (令和5年度末)

熊本県熊本市 テーマ: 昼も夜も歩いて楽しめる魅力的で、災害にも備えた都市空間の創出




市域面積：390.32km²
人口：732,643人
(R3.1時点)

【立地適正化計画】
平成28年4月公表 (都市機能誘導区域)
平成28年4月公表 (居住誘導区域)
【都市再生整備計画 (滞在快適性向上区域)】
令和2年3月公表

○ 道路空間の再配分による辛島公園及び花畑広場間の歩行空間化や、交通事業者と連携したまちなかループバスの運行を進めるなど、ハード・ソフト両面でウォーカブルなまちづくりを推進するとともに、市民協働による夜間景観の形成を進めることで、「昼も夜も誰もが歩いて楽しめる魅力的で、災害にも備えた都市空間」を創出する。

ハード事業 ソフト事業

○ 夜間景観魅力向上推進事業
夜間景観の拡充が望まれる市内各地 (イベント等含む) に照明機材を持ち込み、市民協働で魅力ある夜間景観の形成に取組む。




地域・民間事業者 (地域スポット) ↔ 行政 (照明機材) ↔ 地域・民間事業者 (既存イベント)

新たな景観資源の創出 → 市民の注目・関心度の向上 → 付加価値の向上

昼も夜も歩いて楽しめるまちづくりの推進

○ ビジネス支援拠点施設整備事業
新型コロナウイルス感染症を契機とした新たな日常に対応した働き方の導入に向けて、森都心プラザ・情報交流施設2Fをリノベーションし、テレワーク等にも対応したビジネスサポートスペース等を整備。

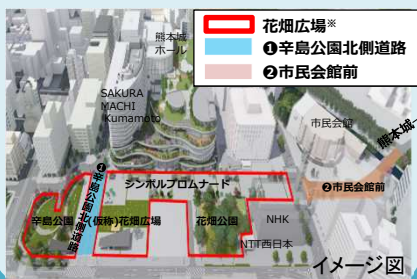


若者層を中心とした起業活性化による、新たな地域産業の創出及び本市経済の持続的発展を目指す。

イメージ図



○ 道路空間再配備事業
市民会館前及び辛島公園と(仮称)花畑広場間の道路の歩行空間を拡充し、一体的な利活用による更なる賑わいの創出と回遊性の向上を図る



花畑広場*
● 辛島公園北側道路
● 市民会館前

イメージ図

○ 駐車場配置の適正化
駐車場の附置義務台数の緩和や原則集約駐車場へ附置することにより歩行者等が安全にまちなかを通行できるようにする取組みを実施。

○ まちなかループバスの運行
新しい「熊本の玄関口」として整う熊本駅周辺地区と桜町・花畑地区等の回遊性を高め、賑わいをまちなか全体に波及させるとともに、公共交通利用者の増加を図るため早くて安くてわかりやすい「まちなかループバス」を運行する。

目標設定

中心市街地の歩行者交通量
中心市街地の歩行者交通量を3年間で約10,000人まで増加基調に
(従前値) 777,696人 (令和2年)
→ (目標値) 789,361人 (令和5年)

中心市街地の賑わい
中心市街地に賑わいがあると感じる市民の割合を増加基調に
(従前値) 59.2% (令和2年)
→ (目標値) 60.5% (令和5年)

中心市街地の公示地価
中心市街地の公示地価平均価格の上昇率を3年後には増加基調に
(従前値) 0% (令和2年)
→ (目標値) +3.6% (令和5年)